

雪印メグミルク酪農総合研究所より 新年のご挨拶と酪総研のご紹介

雪印メグミルク株式会社 常務執行役員 酪農総合研究所長 戸邊 誠司
酪農総合研究所 柳瀬 兼久

新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

2020年は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響により4月には緊急事態宣言が発令され、国民の日常生活をも脅かすこれまでに経験したことのない異常な1年でありました。政界でも安倍内閣から菅内閣への突然の政権交代、国際的にはTPP11・日欧EPA・日米貿易協定に引き続き日英EPAが署名されるなど、貿易自由化が更に進展することとなり、国際情勢は目まぐるしく変化しました。酪農乳業界においても非常に大きな影響を受け必然的に変化を余儀なくされた年でもありました。新しい年が少しでも平穏な1年になることを心から祈るばかりです。

そのような状況下、私共酪農総合研究所は、「酪農産業に関わる幅広い分野の科学的、実践的調査研究と成果の普及を通して、我が国酪農の発展と食糧の安定的需給に寄与する」という基本方針の下、昨年度から取り組み始めた「経営分析・診断」のさらなる推進、「経営実証農家」「実証圃場」等でご協力いただいている酪農家の皆様を通じて得た調査研究・知見の成果を、それぞれの地域の酪農関係者の皆様へ普及させていくことを目指して、雪印種苗㈱や関連部署、関係機関等との連携を今まで以上に強固なものにし、精力的に事業展開してまいりたいと考えております。

今年も皆様方のさらなるご理解ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

雪印メグミルク株式会社 常務執行役員
酪農総合研究所長 戸邊 誠司

1. 酪農総合研究所のご紹介

酪農総合研究所（酪総研）は1975年（昭和50年）に雪印乳業㈱50周年記念事業により民間唯一の酪農調査研究機関として設立しました。その後、2005年（平成17年）に雪印乳業㈱社内研究所になり、更にその後のグループ経営統合を経て雪印メグミルク酪農総合研究所と名称を変え今日に至ります。

現在は雪印グループの使命のひとつである“酪農生産への貢献”を果たすべく、酪農に関する調査研究やその広報などの活動を行っています。今回は酪総研の活動をご紹介しますとともに、今年2～3月にかけて開催する2020年度酪総研シンポジウムについてお知らせいたします。

1) 経営実証農家

経営実証農家は自給飼料の増産とその利活用を促進しながら飼養管理や飼養環境等を改善することで経営改善につなげる取り組みです。推進メンバーとして農協や農業改良普及センターをはじめとする地元の関係団体、大学、コンサルタント会社、雪印種苗㈱などと運営体制を作り、それぞれの専門分野を生かし酪農経営を改善に導き、最終的にはその取組み内容や技術を地域に波及させることで酪農生産現場に貢献することを目的としています。

経営実証農家は5年間という長期スパンでPDCAサイクルを繰り返しながら酪農経営を改善に結びつけるのが特徴です。2009年から始めた経営実証農家はすでに4戸が取り組みを終え、現在は1戸で取り組んでいるところです。

2) 実証圃場

自給飼料の生産圃場を選定し、播種作業、植生状況、収量、肥培管理および調製利用法等を調査・実証

することで、自給飼料の需要喚起に結びつけることを目的に取り組んでいるのが実証圃場です。

この取り組みは2008年から開始し、2020年までの12年間で本州5か所を含む26か所で調査・実証を行い、その内容の一部は「北海道自給飼料生産優良事例発表会」で報告しています。

3) 酪農経営分析・診断

昨年から開始した取り組みに酪農経営分析・診断があります。現在はまだ10件ほどを対象に始めたばかりのパイロット事業的な取り組みですが、1日も早くデータと知見を積み重ね、多くの酪農家の経営改善に役立つ調査研究を進め、酪農生産に貢献できる体制を整えていきたいと考えます。

4) 酪総研シンポジウム

酪総研シンポジウムは酪農乳業に関する諸問題をテーマに毎年開催しています。酪総研創立当初は「酪農講演会」と称し、その第1回目は1978年(昭和53年)に畜産振興事業団元副理事長の田中良男氏をお招きし開催しました。その後、酪総研が創立20周年を迎えた1995年(平成7年)に創立記念特別シンポジウムを開催し、それ以降は「酪総研シンポジウム」の名称で開催し続けています。この最初のシンポジウムは全米酪農生産者連盟政策部長のP. ヴィタリアーノ氏を講師にお招きし、「UR後における世界の酪農・乳業の変化見通しとわが国の対応」という当時の酪農乳業界の最大の関心事項であったガット・ウルグアイ・ラウンド農業交渉にまつわるテーマに焦点を当て開催しました。

それ以降、酪総研シンポジウムは国際化問題、制度政策、消費・市場動向、酪農経営、酪農技術、新規参入、環境問題などそれぞれの時代に即した多岐にわたるテーマを取り上げてきました。そして、昨年までに通算26回開催し、この間の参加者はのべ6,500人を超えるに至りました。これもひとえに関係各位のご理解・ご協力の賜物であり、感謝申し上げます。

2. 2020年度酪総研シンポジウムのお知らせ

昨年まで酪総研シンポジウムは大きな会場を使用し、多くの参加者を集め開催してきました。しかし、現状の新型コロナウイルス感染症拡大の状況を考慮

し、今年はウェブ(WEB)を利用した開催を企画しています。今までとは全く異なる開催になりますが、より皆様のお役に立てる内容にすべく努力致しますので、ぜひご活用いただきますよう、お願い申し上げます。

2020年度酪総研シンポジウム 酪農現場のリスクを考えるⅡ —「暑熱」を考える—

●講演配信日(2021年2月1~21日、3月3日)

第1講演：暑熱対策(施設)と

アシドシース対策について

演者：雪印種苗(株)トータルサポート室

担当部長 松本 啓一氏

第2講演：乳牛への暑熱の影響と

飼料給与面での対策

演者：ハードサポート(株)

代表 村上 求氏

第3講演：暑熱期における

繁殖成績改善のヒント

演者：北里大学獣医学部

准教授 鍋西 久氏

●総合討議配信日(2021年3月3日)

シンポジウムの詳細、お申込みは
酪総研ホームページをご覧ください

酪総研HP：rakusouken.net



もしくは酪総研で **検索**



【お問い合わせ先】

雪印メグミルク(株)酪農総合研究所

TEL：011-704-2131 FAX：011-704-2417